

令和4年度_集団指導	資料 4
令和5年3月28日(火)	

# 各種専門研修等のオンライン開催について

## 《現状》

- ◆ 介護支援専門員に関する各種研修及び指定地域密着型サービス指定・運営基準に規定される研修について、一部を除いて大半は本土において集合形式で開催されている。
- ◆ 本土で開催される当該研修に参加するため、隠岐圏域の介護サービス事業者は本土の介護サービス事業者に比べ、時間やお金を多く負担しなければならない状態が続いている。
- ◆ ここ数年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大から、オンライン会議システムを用いた研修や会議が主流となり、隠岐圏域でもその活用が拡がり、今まで参加できなかった研修や会議への参加が可能となっている。
- ◆ 一方で新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図る観点より、島外へ出向く研修への参加がより困難になっている。



## 《要望》

**島根県に対し、介護支援専門員に関する各種研修及び指定地域密着型サービス指定・運営基準に規定される研修について、オンラインでの開催に向けて検討を進めるよう要望。**

### 〈オンライン開催を要望している研修〉

- 介護支援専門員研修
  - 介護支援専門員実務研修 ※
  - 介護支援専門員専門研修兼更新研修（専門研修課程Ⅰ・Ⅱ）※
  - 主任介護支援専門員研修
  - 主任介護支援専門員更新研修
- 指定地域密着型サービス指定・運営基準に規定される研修
  - 認知症介護実践研修（実践者研修・実践リーダー研修）
  - 認知症対応型サービス開設者研修
  - 認知症対応型サービス事業管理者研修
  - 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修

※研修の一部でeラーニングが導入済み。

### 〈島根県の考え〉

指定地域密着型サービス指定・運営基準に規定される研修について、座学がメインであれば講師が受講態度などを確認しながら評価していく。GWになると全面オンライン化では難しい部分が出てくる。

オンライン化に向けてはGWの進行などオンラインでどうクリアしていくのかが課題。いずれにせよ質の低下を招かない様、委託先と協議を行い慎重に進めたい。



### 〈隠岐広域連合の考え〉

質の担保は重要であると認識している。基本的に隠岐会場で受講者を1か所に集め、そこからオンラインを繋ぎ受講いただく様にしていきたい。隠岐会場で受講生が一定数集まれば、隠岐会場でGWも行うことも可能と考えている。また、隠岐圏域では指導者養成（介護実務者研修教員講習会）も行っており、広域連合と養成した指導者がメイン会場と連携を図りながらサブ的な講師として監督補助すれば質の担保もできると考えている。

一方で隠岐会場で受講者が集まらなければ上記の対応は困難となる。例えば、研修によっては隔年で隠岐会場を設定するなど、『どうやれば開催できるのか』という思考で検討いただきたい。

### «今後»

- ◆ 全ての研修を1度にオンライン化を行うのではなく、可能なものから順次対応いただく。隠岐圏域をモデルとして試験的導入を行うなど柔軟な対応をお願いする。
- ◆ 各種研修をオンライン化していく上で質の担保は重要になる。体制づくりと実績づくりを広域連合と各事業者の協働型で進めていきたい。各種研修のオンライン化と併せて検討を進める。
- ◆ 上記のことに関しては各事業者との意見交換など行いながら進めていく。